

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

特集 立川から地球のことを考える SDGsを一歩進めよう!

SDGs(エスディーゼーズ)が、わたしたちの暮らしに根づいてきました。「人間が地球上で暮らし続けていくために取り組まなければならない、世界共通の目標」であるSDGs……地球の一員である、あなたも、一歩進んで取り組んでみましょう。
企画政策課・内線2688

市の取り組みを紹介します

クリーンセンターたちむにい

3月から運営を始めた「クリーンセンターたちむにい」では、次のような取り組みを行っています。

●焼却熱の活用とクリーンな排ガス



燃やせるごみを焼却する際に出る熱を効果的に回収し、それによって生まれた蒸気でタービンを回し、発電しています。この電気を、クリーンセンター内で使用し、CO₂の排出を抑制します。ほかにも、厳しい排ガス基準を自主的に定め、安全で安定したごみ処理を行い、市民の生活環境を保全するとともに汚染や有害な化学物質の排出を抑制します。



●環境学習

たちむにいには、ごみを処理するだけでなく、環境学習を行える機能を備えていることが特徴です。7月30日には、運営開始後初となるイベント「たちむにいフェス」を開催し、廃材ワークショップや環境ゲーム、施設探検ラリー等を行いました。



ゴルフで遊びながらごみの分別について学びました



施設探検ラリーではプラットホームも見学しました



廃材のプラスチックで思い思いにアートを作りました

地域福祉 アンテナショップ

●身近な交流・活動の場

誰もが気軽にふらっと立ち寄れる居場所です。地域の空きスペースを活用して、住民主体で運営しています。令和5年4月時点で市内に12か所設置され、子どもの遊び場や、健康相談、各種ワークショップのほか、テーマに沿った茶話会など、それぞれの特色を生かした活動が行われています。市と住民、関係機関が協働して、子どもから高齢者までのさまざまな困りごとの解決を目指します。



「食と人との交流」をテーマに4月から週3回開かれている「スマイルキッチン」(幸町)



人と情報が集まるBASE(基地)、元が精肉店だったので298(ニクヤ)の「BASE☆298」(若葉町)



さまざまな機関と連携して、持続可能な社会の実現を目指しています

SDGs目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」では、自治体や企業、団体などがパートナーシップを結び、お互いの強みを生かして地域課題を解決することを目指しています。市は、郵便局やコンビニエンスストア、スーパーマーケットなどと協力した取り組みを進めているほか、さまざまな機関と協定を結び、連携事業を行っています。



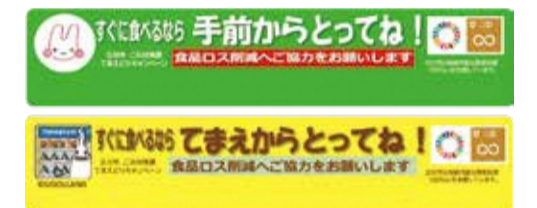
郵便局でスマートフォンの活用支援

市は、日本郵便株式会社と1月に包括連携協定を締結しました。協定をきっかけとして事業の検討を進め、市内7つの郵便局で郵便局員がスマートフォンの使い方を支援する、都内で初めてのサービスが7月から始まりました。スマートフォンを扱うことが苦手な高齢者などが、身近な郵便局で、メールの作成方法や市公式LINEの登録など6つのメニューから必要なものを選んで、学ぶことができます。



「てまえどりPOP」の 掲示で食品ロスを削減

市内の多くのコンビニエンスストアやスーパーと連携して、食品ロスを削減する取り組みを行っています。市内の協力店舗、約100店に、10月のフードロス月間などにあわせて、市が作成した「てまえどりPOP」を掲示してもらい、商品棚の手前にある販売期限の迫った商品の購入を促しています。商品の売れ残りを減らし、廃棄する食品の削減を目指しています。



今日からあなたも / 気軽にできるSDGsアクション

身近なSDGsアクションを4つ紹介します。自分にできることを探して、まず行動してみましょう。

募金や寄付をする

自分が解決したい課題にかかわっていきける手段の一つに、募金(寄付)があります。街頭募金や募金箱だけではなく、インターネットで目的やプロジェクト別に比較できるサイトもあります。



地域活動やボランティアに参加する

地域活動に参加して地域の人たちと交流することは、住みやすいまちづくりにつながります。また、楽しみながらボランティア活動をして、自分のスキルや経験を生かしましょう。



車での移動を減らす

外出や通勤の際、自家用車ではなく、公共交通機関、自転車、徒歩で出かけましょう。CO₂の排出量を減らせます。気候変動の要因を少しでも減らしましょう。



地産地消を進める

輸送コストと環境負荷を抑えることができるほか、地域経済の活性化にもつながります。野菜などの直売所を利用すると、新鮮な農産物が手に入り、食卓も彩られます。



生理用品の配布

●女性を取り巻く諸課題への対応

物価高騰やそのほかのさまざまな理由から生理用品を購入できない女性を支援するために、生理用品を無償で配布しています。1人につき、生理用品1パック(28枚入り)を、市内十数か所配布。あわせて相談支援窓口の案内を同封し、女性を取り巻く諸課題への対応を図っています。



防災備蓄用食料の再利用

●消費期限を迎える炊き出し用アルファ化米を畜産農家へ

防災課が購入し管理している備蓄食料であるアルファ化米のうち、消費期限を迎える分を市内の養鶏農家に引き取ってもらい、飼料として活用してもらっています。これまでは、他団体への寄付や、防災イベントでの炊き出し訓練などで利用してきましたが、さらに飼料としても活用することで、畜産農家にとっては、高騰が続く飼料の購入経費の軽減にもつながっています。また、これらに係る全体的な輸送距離も短くなり、CO₂の削減にも貢献しています。



エスディーゼーズ SDGsとは

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの略称で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されます。貧困や紛争、気候変動など、世界が直面しているさまざまな問題を解決し、将来にわたって地球上で暮らし続けることができるようになるため、2015年の国連サミットで採択されました。

「誰ひとり取り残さない」という共通理念のもと、右図のような17のゴール(目標)と、それを達成するための169のターゲット(より具体的な目標)が設定されています。SDGsは、開発途上国だけでなく、先進国を含むすべての国々が協力し、2030年までに達成することを目指しています。



カラーホイールは、17のゴールが相互につながり関係しあっていることを表しています▲